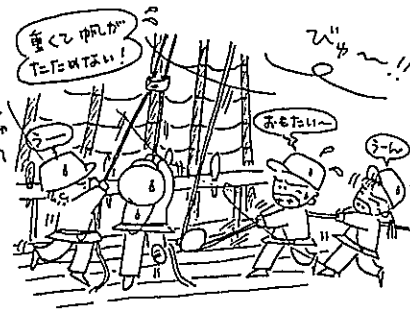


総帆展帆

行われる
 される四月二十九日(金)と五月五日(木)に総帆展帆が行われ、四月二十九日は今年初めての総帆展帆とあって八三名のボランティアの方々が参加しましたが、あいにく朝から風が強くなりました。おさまらず縦帆六枚のみを展帆しました。



五月五日(木)の総帆展帆では七八名のボランティアの方が参加して、総帆を展帆しました。曇天の中ではありませんでしたが、実際に今年初めての総帆展帆でもあまりにぎわいました。

第八次展帆

海王丸が富山に永久係留するに、今回展帆がはじまりました。今、初の展帆専用ボランティア募集は、初めにご協力いただき、県内各地の施設等にご協力いただき、県内各所の甲斐あつてか、五九名のボランティアの方々が参加し、六月三日(日)まで行われ、六月五日(日)に終了し、六月五日(日)に総帆展帆に参加していただきます。

財団の知られぬ

去る五月五日の総帆展帆時の反省会の際もお知らせしましたが、来たる六月五日(日)の総帆展帆時、当財団の評議員会及び理事会が日本海交流センターで行われます。当日は、海王丸展帆ボランティアの皆様を評議員、理事等に迎えて、海王丸展帆ボランティアがより活躍できる環境を考へて、よりおもしろい企画も込めて(?!?)開催します。

つきましては、当日は大変恐縮ですが海王丸ボランティアの控え室等は左記の通りとなりますので、よろしくご協力をお願いいたします。

- 受付 日本海交流センター(従来通り)
 - 控え室 (更衣室)
 - 男性 海王丸船内
 - 女性 センター内
 - 昼食・反省会会場 第三研修室(仕切あり)
 - 海王丸 第一教室
- 展帆ボランティアへの励ましならびに記念写真撮影の励ましならびに記念写真撮影のご案内

六月五日(日)の総帆展帆日に富山に海王丸が永久係留されることを記念して、当日一四一〇から、当財団町田会長、宝賀、高林両副会長を交えてボランティアの皆様が記念写真を撮影いたします。詳細は左記の通りです。

日時 平成六年六月五日(日)
 一四一〇から
 一四二〇まで
 言葉(財団会長等)
 記念撮影
 (当日参加ボランティア全員)
 場所 海王丸パークシエルステージ上

ボランティアの

展帆ボランティアの
 ボランティア 虎谷 博
 風薫る卑月晴れとはほど遠いが、憎の曇り空、おまけに風が強いが、今日は待ちに待った楽しい五月五日の展帆です。食後の休憩時に、二上山から「海王丸」を見ようと話が弾んだ。少し心配だったが、風が凪いだので決行することにした。かつての「天女」を思わせる三人を含め、十人余りで出かけたのです。

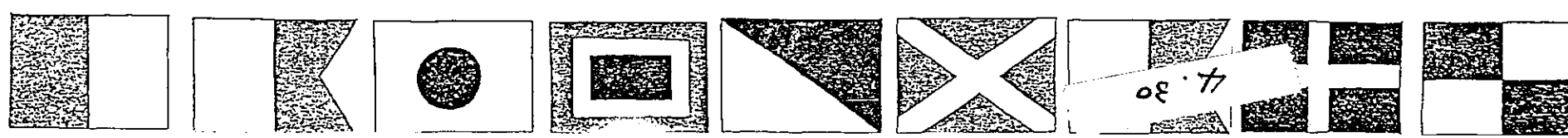
車はあっちこち遠回りしながらも、目的の鐘吊り堂についた。おそろいの白の作業服に身を包んだ、善男善女のご一行に、廻りの人達の驚異の目?の集中を尻目に、髪をふさふさした若い修行僧が見えた。鐘をつく。一方、「海王丸」の間から、春霞にぼかり浮かんだ、総帆展帆の「海王丸」の勇姿が見える。感動もさることながら「早く展帆においてヨ。」と呼んでいる様な、そんな気がして詠んだ歌一首。

二上山の峰より見えし奈呉の浦
 真白き船ぞ我を待つらん
 おー、我ながらグー? 車はつむじ風の如く疾走する? カープが多いから気を付けて「了解」半速前進、ヨウ、ソロー! ほどなく、午後一時過ぎ、着いた所は、標高二五九mの、強者達が夢の跡、守山城社だった。言わぬばかりに、「我が世の春」と言折無情の風が吹いて、花吹雪が舞う。花の絨毯を敷き詰めた山道と花のトンネルを潜りながらの情景は、私の筆では書き尽くし難いが、花の命は短くて、散りし花を見て「物」の哀れを詠んだ歌?

ととき

八重桜散りにし花が君なれば、散りなす風は誰ぞ知りなん
 なにか今いち、変だなり? 今度は本当に「者」の哀れを詠んだ歌、花吹雪 散りし武士哀れと思ふ
 文法も何もあつたものじゃな
 い。初めて作った歌としては、「まあ、いいか!」今度、「私たちは万葉歌人」の先生方にご指導賜りたいと思っております。

ととき
 奈呉の
 季節めぐり
 このツアーの様子は、ビデオに撮り編集集中です。
 それでは、次回はビデオの「夢の海王丸パーク」?でお会いしましょう。
 未だマストのないふうてんのトラさん



航海記

一九九二年五月八日午後二時、練習帆船「海王丸」はアメリカ合衆国ニューヨーク・ポストンへ向け、東京晴海埠頭の運輸省航海訓練所専用棧橋を出港しました。一七日間に及ぶ航海の始まりです。

日本の練習帆船がニューヨークで開かれる帆船バレードへ参加するのは、一九七六年のアメリカ建国二〇〇年祭以来のことです。今回はコロンブスアメリカ大陸周航五〇〇年祭の一環としてポストンで行われるセイルポストンにも参加するということもあって、実習生、乗組員の士気は非常に高く、帆船バレードでは必ず総帆を展開して日本へ帰ってこようと意気込んでいました。

先ずこの航海の概要を説明しますと、東京出港後約一か月かけてアメリカ西海岸のロングビーチ港に向かいます。その後カリフォルニア半島沖を南下しパナマ運河を通り大西洋へ抜けニューヨーク・ポストンで催される帆船バレードに参加の後、再びパナマ運河を通り、帰りはハワイのホノルルに寄港し八月三十一日に東京へ帰港するというものです。距離的にはほぼ地球を一周することになります。

乗船しているのは、東京、神戸両商船大学の航海科実習生四二名、一般から公募された研修生二

〇名、指導員二名、乗組員六九名、総員一三三名でした。

東京出港日である五月八日は快晴であったもののあいにく風が非常に強く、実習生が行った登しゅう礼の

「ごきげんよう」

という声も掻き消されるほどでした。登しゅう礼終了後、見送りにこられた大勢の人々に対して帽子を振り、岸壁上の人々もいつまでも手を振り続け家族、友人、恋人との別れを惜しんだのはいうまでもありません。海上では巡視船、船の科学館などからUW旗（航海の安全を祈るの意味）が掲揚され、また東京商船大学カッター部は「擢立て」を行って長い航海の無事を祈ってくれました。

翌日の午後から総帆を展開し針路を東へ向け「カリフォルニアの太陽」と「自由の女神」を目指す訓練航海の始まりです。（続く）

（阪本）

あどか

一日と暖かくなり、初夏の気配さえ感じさせるこのごろ、ここ海王丸パークから見える二上山も次第に濃い緑につつまれていくのがよくわかります。

海王丸では、第八次展帆ポラントイア訓練もほぼ終わり、六月五日以降の総帆展帆には新たに訓練を終えられた方が、ポラントイアの皆様の仲間に加わる予定となっております。

六月からは毎週末、海王丸の使用命である海事思想の普及を目指して、子供達を対象に海洋教室を実施します。多くの子供達が海王丸に触れることができるように、と考えています。

富山で余生を過ごす海王丸が県民のみならず、多くの方のご理解を得て永く皆様に親しまれるよう、船体整備等においても最善を尽くしたいと思えます。（望遠鏡）

